

合

令和7年度入試 合格実績

東京大学 1名

京都大学 4名

東京科学大学 1名

大阪大学 2名

神戸大学 8名

国公立医学科 2名

国公立大学・大学校 145名

早稲田大学 12名

慶應義塾大学 5名

私立医学科 6名

関関同立近 295名

国家公務員 19名

地方公務員 73名

特別国家公務員 87名

格

体

験

記



興國高等学校
進学指導部

目次

2 — 東京大学	竹内 一真さん	スーパーアドバンスクラス
2 — 京都大学	寺本 琉星さん	スーパーアドバンスクラス
3 — 京都大学	清水 快さん	スーパーアドバンスクラス
3 — 京都大学	大田 智輝さん	スーパーアドバンスクラス
4 — 和歌山県立医科大学	松崎 佑大さん	スーパーアドバンスクラス
4 — 大阪公立大学	石崎 光竜さん	スーパーアドバンスクラス
5 — 京都工芸繊維大学	飯田 章太郎さん	スーパーアドバンスクラス
5 — 防衛大学校	シャルマ 深藍さん	スーパーアドバンスクラス
6 — 静岡大学	川崎 雅也さん	プレミアムアドバンス
6 — 滋賀大学	片岡 鮎太郎さん	プレミアムアドバンス
7 — 県立広島大学	齊藤 健太さん	プレミアムアドバンス(ラグビー部)
7 — 立命館大学	谷田 悠豪さん	プレミアムアドバンス
8 — 龍谷大学	兎田谷 肇さん	プレミアムアドバンス
8 — 神戸大学	上地 希輝さん	アスリートアドバンスコース(サッカー部)
9 — 和歌山大学	熊谷 直也さん	アスリートアドバンスコース(硬式野球部)
9 — 慶應義塾大学	尾形 祐輔さん	アスリートアドバンスコース(サッカー部)
10 — 株式会社 きんでん	松本 陸さん	アスリートアドバンスコース(硬式野球部)
10 — 大阪工業大学	森知 佑太さん	アカデミアコース(硬式野球部)
11 — 警視庁	池本 圭一郎さん	キャリアトライコース(陸上競技部)
11 — 大阪公立大学	末吉 亜斗夢さん	ITビジネス科アドバンスコース
12 — 立命館大学	近藤 航さん	ITビジネス科アドバンスコース
12 — 関西外国語大学	中川 薫さん	ITビジネス科ゲーム&デジタルワークスコース



現役合格とはまた違う、格別の喜びを

スーパーアドバンスクラス
竹内 一真さん
(堺市立福泉中学校卒)

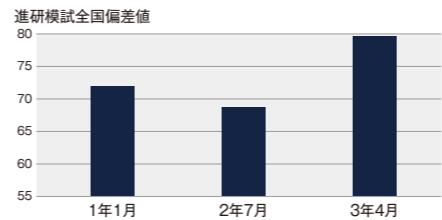
○合格大学 東京大学(文科一類)
慶應義塾大学(商学部) 他

「浪人すれば受かる」もしうそ思っているなら、少しだけ立ち止まって僕の話を聞いてください。綺麗事ではない、一年間の浪人で経験した厳しい現実と、その先に見えたものについてお話しします。私の幼い頃からの目標は、将来、警察官僚になることでした。その目標達成のためには伝統的に多くの人材を輩出している東大法学部で学ぶことが最適だと考え、東大に入ることを決意しました。現役のころは7点足らずに不合格になり、浪人することになりました。厳しい現実ですが、一年間真面目に勉強しても、必ずしも成績が上がるとは限りません。私自身、二次試験の手応えとは裏腹に、現役時より点数が下がった科目もありました。大切なのはその現実を受け入れて一步を踏み出せるかということです。それらの可能性を受け入れた上で、それでも自分にできる最善を尽くすという覚悟ができた人は、きっと成功すると思います。

勉強法は、各科目的特性に合わせて組み立てました。英語は森脇先生のノートを毎日繰り返し読み、リスニングは過去問で毎日耳を慣らす。数学は熊谷先生のS班課題に加え、「1対1対応の数学」「プラチカ」で演習を積む。国語は「古文単語315」で語彙と古文常識を固め、読解の土台としました。

受験生活では、意識的な息抜きが不可欠でした。私の場合は、土曜の夜にラーメンを食べに行ったり、天王寺MIOに参考書を見に行くついでに食事をしたりするのが楽しみでした。現役の時は、乃木坂のライブに行くななど、少しそのバランスを間違えて失敗したかもしれません。しかし、この浪人を通して厳しい自己管理の中にも、心を休ませる時間がいかに大切か身をもって学びました。

合格した今、感じるのは安堵感だけではありません。遠回りしたからこそ得られた精神的な強さと、支えてくれた人々への深い感謝、そしてこれから始まる大学生活への大きな期待があります。この厳しい一年間は、自分自身と向き合うための、決して無駄ではない時間でした。その覚悟を持って臨めば、たとえ遠回りになったとしても、その道程は皆さんを人間として大きく成長させてくれます。現役合格とはまた違う、格別の喜びを得ることが出来ました。



担任コメント

京大なら合格確実だったにも関わらず、東大受験を突き進んだ竹内君。僅差での不合格は、だいぶショックだったと思います。今年の入試では、初日の数学が難化したため大分落ち込んでいたようですが、立ち直り見事に逆転合格を決めてくれました。慶應の試験の日「余裕でした。」とLINEを送ってくれたり、合格発表の日まで自転車の旅に出たりと奔放な性格は、将来ビッグになる予感をさせます。



あの不安や努力の日々を思い出すと、胸が熱くなります

スーパーアドバンスクラス
寺本 琉星さん
(八尾市立東中学校卒)

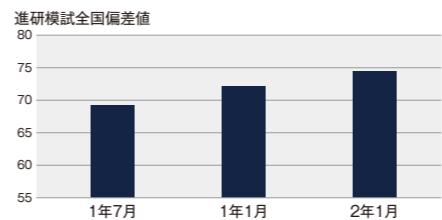
○合格大学 京都大学(工学部情報学科)
慶應義塾大学(理工学部) 他

僕には、物心ついた頃からどうしても叶えたい夢がありました。僕の夢は任天堂で働くことです。世界中の人々を笑顔にするゲームを作りたい。その夢を実現するためには、日本で最高の環境で学ぶしかないと考え、高校1年生の時から、ただひたすらに京都大学工学部情報学科だけを目指して走り続けてきました。

部活に所属していなかった僕は、その時間のすべてを勉強に捧げました。特に受験期は、毎日10時間、机に向かうのが当たり前のことでした。数学は主に熊谷先生からいただく課題や演習を完璧にこなすことを土台としながら、さらに思考力を高めるため、自主的に様々な大学の過去問を涉獵し、数多くの難問に挑戦しました。英語は森脇先生の毎日ノートを一日も欠かさず提出し、通学の電車の中では速読系の単語帳が手放せない相棒でした。

「本当に自分は合格できるのだろうか?」—その先の見えない不安に、心が押し潰されそうになった夜は数え切れません。しかし、そんな時こそ僕は、合格して京大のキャンパスを歩いている未来の自分を、強く、鮮明に想像しました。「今この一瞬を頑張れば、必ず未来は変えられる」と自分に言い聞かせ、どんなに辛くても、毎日少しづつでも前へ進むことをやめませんでした。合格通知を手にした今でも、あの不安や努力の日々を思い出すと、胸が熱くなります。夢に一歩近づいたという確かな喜びと、僕を感じ、支え続けてくれた家族や先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。この想いを胸に、これからも努力を続けます。

後輩の皆さんへ。不安や焦りは、本気で挑んでいる証拠です。その気持ちから逃げずに、日々の小さな積み重ねを信じてください。それが必ず、皆さんの搖るぎない力になります。自分を感じ、最後まで、絶対に諦めないでください。



担任コメント

京大の中では医学部に次ぐ難関、学部によっては東大よりも合格が難しいと言われる情報学科に合格してくれました。現役の時から得意だった数学を武器に他の科目を仕上げることで、合格することが出来たのだと思います。礼儀正しくいつも落ち着いていた寺本くん。それだけに、現役時の不合格の日の涙は忘れられません。合格して本当によかったです。



焦らずに「時間」に身を任せることも大切

スーパー アドバンスクラス
清水 快さん
(大阪市立加美中学校卒)

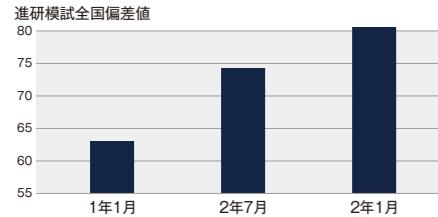
○合格大学 京都大学(工学部地球工学科)
近畿大学(医学部医学科) 他

受験勉強は、ただやみくもに頑張るだけでなく、計画的に進めることができます。進路を考える上で、実は医学部に進んで臨床医になる道と、大学で研究職に就く道とで、少し迷っていました。実際に医学部にも合格をいただきましたし、人の命を直接救う医師という仕事は、大変尊く、魅力的だと感じていました。

しかし、自分の性格を深く見つめ直したとき、瞬時の判断力や高いコミュニケーション能力が求められる臨床の現場よりも、一つの説や課題と静かに、そして長く向き合う研究職の方が、自分には合っているのではないか、と考えるようになりました。知的好奇心を満たしながら、こつこつと真理を探求していく。その方が、自分らしく社会に貢献できる道だと感じ、研究の道に進むことを決意しました。そして、最先端の研究ができる環境として京都大学を志望し、その中でも特に環境問題という大きな課題に取り組みたいという思いから、地球工学科を選びました。

僕の勉強のやり方は、科目ごとに力を入れるべきところをはっきりさせ、そこに集中するという、シンプルなものでした。京大入試の肝となる三科目(数・物・化)は、まず学校の授業で内容をしっかりと理解し、その上で問題演習を繰り返すというサイクルでした。特に化学と物理は、先生方の添削指導や『セミナー』なども活用し、応用力を高めていました。国語の対策は基本的なことに留め、その分、英語は先生方の添削指導を軸に、書く力を伸ばすことに時間をかけました。共通テストのみの科目は、直前期の模試を利用して集中的に対策しました。勉強中、どうしても分からぬ問題に直面した時は、まず先生や友人に聞いて、違う視点から教えてもらうようにしていました。それでも分からぬ場合は、そこに時間をかけすぎても仕方がないと考え、思い切って後回しにし、他の解ける問題を完璧にすることに集中しました。また、ストレスを溜めないように、十分な睡眠時間を確保することは何よりも大切にしていました。

受験では、どうしても自分一人では解けない問題がでてきます。そんな時は、ためらわずに周りの人、特に先生や友達を頼るべきだと思います。また、良いコンディションで勉強を続けるためには、しっかり眠ることも本当に大切です。皆さんの健闘を祈っています。



担任コメント

常にマイペースな清水くんは、淡々としたペースで合格を勝ち取ってくれました。実際、余裕を持った合格には見えましたが、1年生の頃からものすごい成績の伸びを見せてくれました。今後、研究の世界でもその集中力を発揮してください。



あの時、合格通知を受け取っていたら…

スーパー アドバンスクラス
松崎 佑大さん
(大阪市立阪南中学校卒)

○合格大学 和歌山県立医科大学(医学部医学科)
旭川医科大学(医学部医学科) 他

一度ならず、二度も不合格になりました。あの時のことは、今でも鮮明に覚えています。だからこそ、追加合格の連絡を聞いた瞬間は、すぐには信じることができますでした。

医師を目指し、高校3年生から本格的に受験勉強を始めました。部活をしていなかったので時間はありましたが、1日の勉強時間は2時間程度と、周りと比べれば決して多くはなかったと思います。学習の中心は、学校でいただいた教材でした。数学は『フォーカスゴールド』と先生のプリント、英語は森脇先生の教材、化学は『セミナー』と小西先生のプリント、物理は先生のプリントと『物理のエッセンス』。与えられたものを、ただ淡々とこなしていく毎日でした。特別な勉強法があったわけではありません。志望校を最終的に決めたのも、共通テストが終わった後でした。そんな中で迎えた国公立前期入試では、力及ばず、不合格という結果を受け取りました。

辛かったか、と聞かれれば、もちろん辛かったです。合格したら行こうと思っていた中期試験も、全く受ける気が起きました。しかし、そこで長く落ち込んでいる時間はありませんでした。勉強に行き詰った時のように、一度気持ちをリセットするため、テレビを見たり、買い物に出かけたりしました。そして、残された次の機会に向けて、また静かに机に向かう。やるべきことは、結局それだけでした。けれども、後期入試の不合格通知を受け取ることになってしまいました。

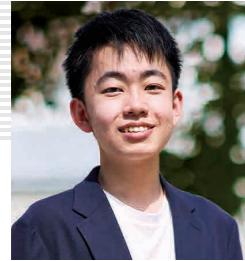
浪人をしようと思いつい年度への学習を始めた矢先、忘れもしない3月28日の朝でした。2時間のうちにはじめは旭川、次に和歌山と後期と前期のダブルでの追加合格の連絡が舞い込んできました。掴み取った二つの合格。信じられない、という気持ちの後に、大きな安堵感がやってきました。

今、こうしてストレスなく楽しく大学生活を送っていることが、本当に嬉しいです。あの時、中期試験を受けて合格通知を受け取っていたらこの追加合格はありませんでした。まっすぐに自身の志望を貫いてよかったですと強く思いました。後輩の皆さんへ。多くを語ることはできませんが、受験は最後まで何が起こるか分かりません。目の前のやるべきことに、ただ集中してみてください。その先に、道が拓けることもあると思います。



担任コメント

松崎、第一志望合格、本当におめでとう。1年生の時から医師になるという目標を掲げ、何度も心が折れそうになりながらも、最後までその志を貫き通した君の精神力は本当に立派です。二回の不合格で、私も一度は肩を落としましたが、追加合格の知らせを聞いた時は、職員室で思わず飛び上がってしまいました。君の努力が最高の結果に結びついて、心から嬉しく思います。



人の役に立ち、教育や福祉で世界に貢献したい

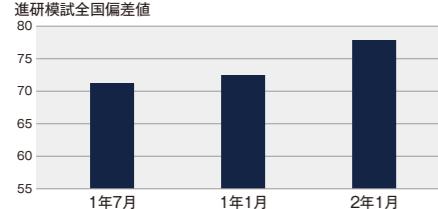
スーパー アドバンスクラス
大田 智輝さん
(大阪市立梅南中学校卒)

○合格大学 京都大学(医学部人間健康科学科)
同志社大学(社会学部教育文化学科) 他

私が京都大学を志望したのは、できるだけ上を目指したいという純粋な向上心に突き動かされたからです。教育行政や社会福祉という分野において、将来は必ず人の役に立ち、教育や福祉で世界に貢献したいという強い思いが、人間健康科学科を選択する決定的な理由となりました。この難関大学への挑戦は、私の夢を実現するための、かけがえのない第一歩だと心から信じています。

私の家庭環境は決して裕福ではなかったため、予備校に通いながら学習という選択肢はありませんでした。だからこそ、授業すべてが完結する興國高校を選びました。私は学校の授業と、そこで配布される教材一つひとつを、最大限に活用しようと努めました。英語、国語、物理は授業の内容を徹底的に理解することに集中し、数学は毎日出される課題に真剣に取り組みました。化学では、小西先生の添削課題が私の大きな支えとなり、何度も何度も見直し、自分のものにしていました。市販の参考書に手を出す余裕はなかったので、数学の4step、物理と化学のセミナー、英語のプラットフォームなど、学校で配られた教材を文字通り使い倒すことに全力を注ぎました。私にとって、学校の教育資源こそが学力を伸ばすための最高のツールだったのです。高校生活の中で最も心に重くのしかかったのは、入学当初の学校に通うのが辛かったという経験でした。慣れない高校生活に心が折れそうになり、夜遅くに担任の先生に電話したこともあります。しかし、特別な解決策があるわけでもなく、ただ「慣れるまで頑張るしかない」と自分に言い聞かせ、必死に耐え抜きました。結果、クラスメイトや担任の先生の暖かさもあり、高校生活には意外にも早い段階で慣れることができました。

現役で第一志望に合格できたと知った時、安心したというが正直な気持ちです。これまでの努力が報われた喜びと同時に、これから始まる大学生活への期待で胸がいっぱいになりました。入学手続きやその他の準備も、まだまだ気を抜かずに、大学でも新たな気持ちで、さらに努力し続けたいと強く思っています。現在、私は母校である興國高校のチーフとして、後輩たちの指導に携わっています。これは、私が高校時代に培った学びと経験を、今度は後輩たちに還元し、少しでも恩返しがしたいという、私自身の強い思いの表れです。私の合格体験記が、これから受験に挑む皆さん、ほんの少しでも力になれば幸いです。



担任コメント

大田君、京都大学合格おめでとう。特色入試では体調不良で実力を発揮できなかったようでしたが、その経験をバネに見事に一般入試で合格を掴み取りましたね。将来、教育や福祉の世界で恵まれない人々に貢献したいという君の熱い思い、本当に素晴らしいです。大学でもその志を忘れず、大いに活躍してくれることを期待しています。頑張ってください!



あの時もっとやっておけばよかったとは言いたくない

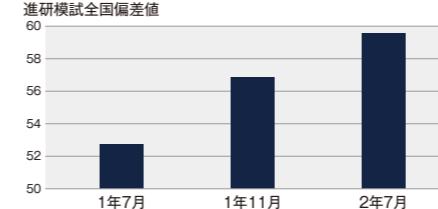
スーパー アドバンスクラス
石崎 光竜さん
(大阪市立宮原中学校卒)

○合格大学 大阪公立大学
(生活科学部食栄養学科)

私の原動力は、とてもシンプルなものでした。「食べることが大好き」。将来どんな仕事をしたいかと考えた時、この純粋な気持ちから、食品関連の仕事に就きたいという夢が生まれました。そして、その夢を叶える場所として、大阪公立大学を志望しました。高校2年の3学期に目標を定め、3年生の4月から本格的な受験勉強を始めました。しかし、勉強を始めすぐに、私は大きな不安に襲われました。「この勉強は、一体いつまで続くのだろう」「合格するには、どれくらいの量をやればいいのだろう」。ゴールの見えないマラソンを走っているような感覚で、ただ漠然と机に向かう日々が続きました。

その不安を乗り越えるきっかけは、特別な方法ではなく、勉強を続けることそのものでした。共通テストのパックや、二次試験の赤本、模試などをひたすら解き続ける中で、少しずつ入試の現実が見えてきました。何が問われ、自分に何が足りないのかが明確になるにつれて、今の勉強量では、到底安心できないという、良い意味での危機感が生まれました。不安は、知らず知らずのうちにもっとやらなければという強い動機に変わっていました。そこから私の勉強時間は、1日10時間から、時には14時間にまで増えました。とにかく、この大学のこの学部以外に行きたくない。そういう気持ちも芽生えました。物理は先生からいただいたプリントを信じ、英語や数学も過去問演習を徹底する。やるべきことが明確になれば、長い勉強時間も苦ではありませんでした。

今、とにかく合格できてよかった、という安堵の気持ちでいっぱいです。そして、これから大学生活、さらには将来就職する時に、「あの時もっとやっておけばよかった」と後悔することのないよう、これからも努力し続けたいと思っています。後輩の皆さんへ。私は2年生の時、クラスでは習熟度別の下の班でした。決して最初からトップ層にいたわけではありません。それでも、諦めずに勉強し続けた結果、第一志望に合格することができました。今の自分の立ち位置で、夢を諦める必要は全くありません。諦めなければ、合格は必ず掴み取れます。頑張ってください!



担任コメント

推薦入試であと1点に泣いた姿を見ていただけに、「前期一本、浪人覚悟で臨む」と決意した君の覚悟には、並々ならぬものを感じました。不安を圧倒的な努力でねじ伏せ、あの高倍率を見事に勝ち抜いた精神力は本物です。その物語は、多くの後輩の希望となるでしょう。本当に頑張った。



一番辛かったのは 友達の合格を素直に喜べなかったこと

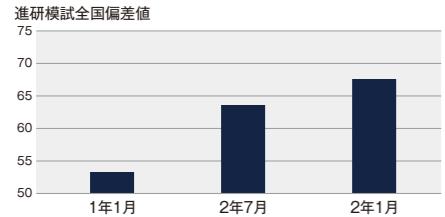
スーパー アドバンス クラス
飯田 章太郎さん
(河内長野市立加賀田中学校卒)

○合格大学 京都工芸繊維大学
(工芸科学部応用化学課程)

一番辛かったのは、模試の判定よりも、友達の合格を素直に喜べなかった自分の心でした。そういった意味では、僕の受験生活は葛藤の連続だったと思います。葛藤の中心となったことそれは、勉強そのものではなく、友人関係の中で生まれた自分の心の弱さでした。推薦入試や総合型選抜などで、友人たちが自分より先に受験を終え、進学先を決めていく。もちろん、友人の合格は心から祝福したい。でも、その時の自分の心には、そんな余裕はありませんでした。焦りと羨ましさで、素直に「おめでとう」と言ってあげられない自分が、本当に情けなく、悔しかったです。

しかし、そんな僕を救ってくれたのも友人でした。まだ受験を終えていない他の友人たちと「お互い頑張ろうな」と励まし合い、支え合いながら、前を向くことができました。同じ痛みを知る仲間がいたからこそ、孤独にならずに済んだのだと思います。合格した今、素直に嬉しいです。大変だったけれど、あの努力があったからこそ今があると、心から思っています。そして、D判定からの逆転合格に導いてくれた、熱心に指導してくださいだった興國高校の先生方には、感謝しかありません。

私がこの大学を選んだのは、将来やりたいことが化学に関連することや、教師という夢も諦めたくなかったので、教員免許も取得できるという点が大きな理由でした。志望校を固めたのは共通テストの後です。学習は高校2年生の後半から始め、平日は4時間、休日は10時間を目安に勉強していました。主に学校の教材や先生方の指導を信じて、基礎を固めることに注力しました。最後に、後輩の皆さんへ。勉強は、正しいやり方で続ければ、どこまでも上を目指せるものだと信じています。最後まで自分を信じ、やり切ってほしいと思います。



担任コメント

合格おめでとう。今年の1組は年内の国公立大学への合格者も多く、焦ること多かったでしょう。その中で、自分の心や弱さと向き合い、乗り越えた経験は、飯田くんを成長させてくれたはずです。支え合った仲間との絆を大切に、大学では教員という夢に向かって、さらに大きく羽ばたいてくれることを心から楽しみにしています。



自分には国公立なんて

プレミアムアドバンス
川崎 雅也さん
(大阪市立堀江中学校卒)

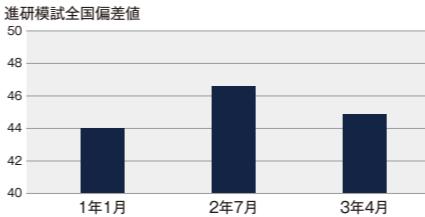
○合格大学 静岡大学
(人文社会科学部法学科)

僕の合格体験が、皆さんに勇気を与えることができれば、これほど嬉しいことはありません。正直に告白すると、僕は共通テストを受けるまで、どこか私立大学に合格できれば万々歳だと考えていました。しかし、共通テストが終わった後、担任の小伏先生が「せっかくだし、国公立も受けてみたらどう?」と提案してくださったのです。その一言が、僕の運命を変えました。運が良ければ、自分も国公立大学に合格できるかもしれない。そう思い、学校推薦型選抜で静岡大学に挑戦することを決意しました。

僕の勉強方法は、徹底した「復習」です。授業で扱った過去問は、その日のうちに必ず見直し、数日後にもう一度解き直す。そして、なぜその答えになるのか、根拠まですべて説明できるまで、じっくり時間をかけて理解する。この繰り返しで、自分の弱点を正確に把握し、次の授業ではその弱点を意識しながら問題に取り組む、というサイクルを全教科で実践しました。

最も辛かったのは、自分に合った勉強法がなかなか見つからなかったことです。試行錯誤の末、3年生の夏過ぎから、朝3時か4時に起き、家族が起きてくれるまでリビングで勉強するというスタイルに辿り着きました。最初は睡魔との戦いでいましたが、日が経つにつれて体が慣れ、気づけばそれが僕のルーティンになっていました。自分に合うものを探すことに時間をかけるより、決めたことをやり抜く辛さを乗り越える方が、ずっと重要だと僕は思います。

後輩の皆さんへ伝えたいことを書きます。僕のように、思いがけず国公立大学への道が拓ける可能性は、皆さん一人ひとりにあります。「自分には国公立なんて…」と、決して自分を過小評価しないでください。自分自身を信じてあげてください。「俺ならできる!」「こんなところで諦めるな!」と、綺麗事でも構いません、誰よりも自分自身が自分の応援団長になってあげてください。目標は高く、そしてそれ以上に、自己肯定感を高く持って、受験勉強を乗り越えてください。



担任コメント

持ち前の素直さや、人柄が大学の教授にも伝わったからの結果だったと思います。常にコツコツと学習する川崎くんの姿は周りの手本になりました。こっちからの急な提案に対しても、しっかりと反応して、判断して合格した川崎くんの将来が楽しみです。



自分には譲れない夢がある

スーパー アドバンス クラス
シャルマ 深藍さん
(東大阪市立盾津東中学校卒)

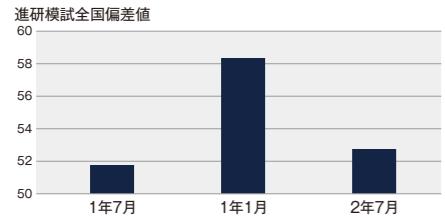
○合格大学 防衛大学校(理工学専攻)

私には、中学2年生の時から抱き続けてきた、搖るぎない夢がありました。それは、東日本大震災のニュースで見た自衛隊の方々のように、献身的に人の役に立つことです。その決意を胸に、私は防衛大学校を目指しました。私の歩みが、皆さんに進路を考える上で、何かのきっかけになれば嬉しいと思います。

正直に言うと、中学生の頃は全く勉強をしていなかったので、高校でスーパー アドバンス クラスに入った当初は、授業についていくのが本当に大変でした。周りのレベルの高さに圧倒され、自分の基礎学力のなさを痛感する毎日からのスタートでした。そこから、とにかく地道な努力を積み重ねることを自分に課しました。特に苦手だった数学は、多くの参考書に手を広げるのではなく、「黄色チャート」一冊を完璧になるまで何度も繰り返し解きました。英語は語彙力が全ての基本だと考え、通学の電車の中ではスマートフォンを触らず、「システム英単語」の暗記に徹することを自らのルールとしました。その一つひとつが、少しずつですが、確かな自信に繋がっていました。

もちろん、辛いこともありました。友人たちが楽しそうに遊んでいる姿を見ると、どうしても羨ましく思う気持ちが湧き上がります。しかし、そんな時こそ「自分には譲れない夢がある」と再確認し、遊ぶ時は思い切り遊び、勉強する時は集中するというメリハリをつけることで、自分の心をコントロールしていました。

後輩に伝えたいことは、私には中学時代に勉強の貯金があったわけではありません。それでも、高校からの努力で、第一志望の道に進むことができました。今の成績がどうであれ、強い意志を持って努力を続ければ、道は必ず拓けます。皆さんの健闘を祈っています。頑張れ。



担任コメント

防大合格、本当におめでとう。その持ち前の明るさは、いつもクラスの中心でしたね。真っ直ぐな情熱が空回りし、私が叱ることもありました。特に苦手な数学から逃げ出しそうになった時も、厳しく声をかけましたが、あなたはそこから逃げることなく地道な努力を続け、見事に夢を掴み取りました。日本の未来を担う人材となってくれることを、心から期待しています。



自分の人生に妥協したくない

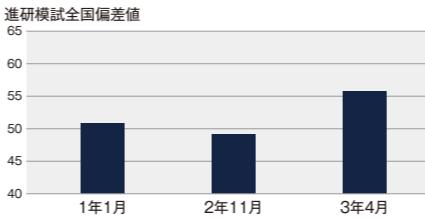
プレミアムアドバンス
片岡 鮎太郎さん
(大阪市立下福島中学校卒)

○合格大学 滋賀大学(経済学部)

私が滋賀大学を志望したのは、データサイエンス教育や文理融合の学び、そして近江商人の精神を受け継ぐ実践的な教育に、他大学にはない強い魅力を感じたからです。

学習においては、全ての教科で授業後の復習と過去問演習を徹底しました。参考書は、現代文や日本史では『実況中継シリーズ』、数学は『基礎問題精講』、英語は『システム英単語』と『ポラリスシリーズ』などを活用し、基礎から応用まで体系的に学習を進めました。受験勉強で最も辛かったのは、返却される模試の結果が、一向に上がらなかったことです。特に国公立志望で8科目を勉強していましたが、このまま絶望的な状況で勉強を続けて中途半端な結果に終わるくらいなら、いっそ3教科に絞って、少しでも良い私立大学を目指すべきではないかと、何度も心が折れそうになりました。その葛藤を乗り越えることができたのは、「なぜ自分は滋賀大学を第一志望にしたのか」という原点にもう一度立ち返ったからです。そこには、簡単には諦められない「自分の人生に妥協したくない」といった強い理由がありました。その一心で、合格まで走り抜くことができました。努力が実り、合格を知った時は、大きな喜びが込み上げてきました。夢への第一歩を踏み出せたことに、感謝と希望で胸がいっぱいです。

皆さんへ。大学では、自分より偏差値が10も20も高い高校出身の学生が当たり前にいます。ですが、興國高校は毎年、そういった大学にも合格者を出しています。皆さんにもその力は必ずあります。どうか、一日でも早く志望校を決め、その大学に向けた勉強時間を増やしてください。何をすれば良いか分からなければ、先生方に相談してください。大学が君たちの最終学歴になります。最後まで、自分の進路にこだわり抜いてください。



担任コメント

妥協することなく学習に取り組めたことが合格につながったと思います。クラスの学習のリーダー的な存在として、自分の目標に向かって走りきった片岡くんのおかげで他の生徒たちも志望大学に合格することができたのではないかでしょうか。大学でもがんばってください。



担任の先生が大きな支えだった

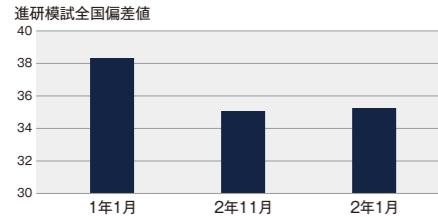
プレミアムアドバンス(ラグビー部) ○合格大学 **県立広島大学(生物資源科学部生命環境学科)**
防衛大学校(理工学専攻)
齊藤 健太さん
 (芦屋学園中学校卒)

学習に軸足を置きながらラグビーにも触れたいという思いの下、プレミアムアドバンスに入学しましたが、思いのほか部活動に熱中してしまい、本格的に受験勉強へ舵を切ったのは、3年生の夏でした。周りの受験生はすでに入試モードに入っています、正直、焦りがなかったと言えば嘘になります。残された時間は限られている、だからこそ、「やるしかない」と覚悟を決め、1日の勉強時間を10時間に設定しました。グラウンドから机へ、戦う場所が変わっただけだと自分に言い聞かせ、気持ちを切り替えました。

志望校は、国公立大学で食品について学べるという理由と去年のラグビー部のキャプテンが学んでいるという理由で県立広島大学に決めました。しかし、勉強を始めてすぐに高い壁にぶつかりました。それは、「努力しても、点数がすぐには出ない」という現実です。毎日必死に机にかじりついても、模試の結果は思うように伸びない。その苦しさは、ラグビーの厳しい練習で、なかなか自分のプレーが上達しなかった時期の感覚とよく似ていました。でも、僕はラグビーから大切なことを学んでいました。それは、最後まで諦めずにタックルを繰り返し、走り続ければ、必ず少しずつ前に進めるということです。見えないところで体力や技術が身についているように、勉強も今は苦しくても、知識は確実に頭の中に蓄積されているはずだ。そう信じて、歯を食いしばりました。

そして、僕にはもう一つ、大きな支えがありました。それは、ラグビーのコーチを信じるように、全面的に信頼していた担任の生藤先生の存在です。特に生物の勉強など、何から手をつけて良いか分からず、生藤先生を信じてついでいくだけと心に決め、先生からいただいた指導や課題を、ただ愚直に、ひたすら実行しました。迷った時に信じられる指導者がいることは、暗闇の中の灯台のように、僕の進むべき道を照らしてくれました。

合格を知った時は、試合終了のノーサイドの笛を聞いた時のような、大きな安堵感に包まれました。最後までやり抜いて本当に良かった、と心から思いました。後輩の皆さん、特に部活動に打ち込んでいる人たちへ。部活動を頑張ったその精神力は、必ず受験という舞台で君たちの最大の武器になります。そして、信頼できる先生を見つけてください。その人を信じ、言われたことをやり抜く素直があれば、道は必ず拓けます



担任コメント

彼自身は、部活動同様に誰にも負けたくないという強い信念を持った生徒であり、勉強においても周りの先生方から積極的にアドバイスをもらうなどして、何とかしようとする姿勢が強く見られました。時にはつまづく時もありましたが、持ち前の何事にも当たつていくという気持ちで乗り越え、見事合格した時は本当に嬉しかったことを覚えています。信念を持ってやり続ければ、必ず身を結ぶということを体現してくれた生徒です。



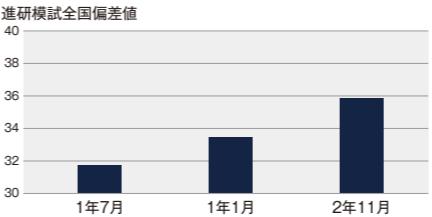
勉強は一日でも早く始めるべき

プレミアムアドバンス
龍谷大学(文学部英語英米文学科)
兎田谷 順さん
 (岸和田市立光陽中学校卒)

この春、プレミアムアドバンスから一般入試で龍谷大学に合格することができました。私の合格体験が、皆さんの参考になればと思います。私が龍谷大学を志望校に定めたのは、3年生の8月でした。いくつかのオープンキャンパスに参加しましたが、龍谷大学の雰囲気が自分に最も合っていると直感し、ここで学びたいと強く決意しました。

本格的な受験勉強に着手したのは、3年生の7月です。それまで学習習慣がなかったからこそ、「大学受験だけは後悔のないようにやり遂げる」と心に誓いました。この覚悟が、私を奮い立たせる最大の原動力となりました。学習の習慣がなかったため、机の前に座るということがここまで辛いということを知りませんでした。だから、学習時間は平日5時間、休日10時間を下回らないということを心に強く決め、自分を律して机に向かい続けました。使用した教材は、英語が『大学入試はじめの英文読解ドリル』、現代文は『新・現代文レベル別問題集』、日本史は『詳説日本史』です。多くの教材には手を出さず、これらを徹底的に繰り返すことで、知識を確実に自分のものにしてきました。合格を決めた入試は、卒業式を欠席して受験した龍谷大学の三日目でした。とにかく自身の執念が合格を生みました。

これから受験に臨む皆さんには、自らの経験をもって、勉強は一日でも早く始めるべきだと断言します。私はスタートが遅れた分、厳しい戦いを強いられました。皆さんが計画的に学習を進め、持てる力を存分に発揮されることを願っています。



担任コメント

地道な努力は必ず報われる。「やると決めたらやり抜く」強い覚悟が、受験勉強を乗り越える力となりました。学習習慣を一から築き上げ、教材を絞って着実に実力をつけた努力は、必ず今後の糧になります。龍谷大学での新たな挑戦を応援しています。本当に合格おめでとう！



学習計画の再設計が大切

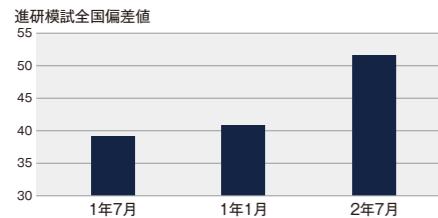
プレミアムアドバンス
立命館大学(食マネジメント学部)
谷田 悠豪さん
 (八尾市立曙川中学校卒)

私が本格的に受験勉強を始めたのは、高校3年生の4月です。特定の志望校を固めたのは10月と比較的遅めでしたが、それまでは基礎学力の向上に集中し、一日6時間の勉強を継続していました。

学習においては、各科の特性に合わせた地道な反復を大切にしていました。英語: 毎日、単語や文法の復習を欠かさず行い、長文は構造を意識しながら音読を繰り返すことで、速読力と精読力を養いました。『英文解釈の技術70』は、複雑な構文を正確に理解する上で、非常に効果的でした。古文・漢文は、語彙力が読解の土台になると考え、『古文単語315』を使い、着実に知識を定着させました。日本史は個々の出来事を暗記するのではなく、教科書や『日本史図録』を活用し、常に時代の大きな「流れ」と「因果関係」を意識して、体系的に理解することを心がけました。

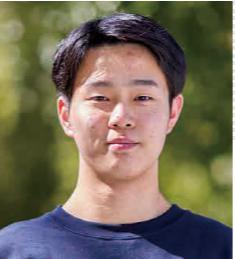
しかし、長い受験期間の中では、どうしても成績が伸び悩んだり、意欲が湧かなかったりする時期がありました。そんな時、私が実践していたのは、学習計画の再設計です。闇雲に机に向かうのではなく、一度立ち止まって計画を見直し、「今日はこの章を完璧にする」「今週中にこの単語を100個覚える」といった、具体的で達成可能な目標を立て直しました。そして、その小さな目標を一つひとつクリアしていくことで得られる達成感が、次へ進むための大切な活力となりました。

大学生生活が始まることに、大きな期待を寄せています。同時に、新しい環境への身が引き締まる思いもありますが、受験期に培った課題解決の姿勢で、これから直面するであろう様々な挑戦にも、前向きに取り組んでいきたいです。後輩の皆さんに伝えたいことは、特に英単語の学習は、一日でも怠ると力が鈍ってしまいます。たとえ少量でも、毎日コツコツと続ける習慣を身につけることが、何よりも大切だと実感しました。その日々の着実な一歩が、やがて飛躍する実力へと繋がります。



担任コメント

受験は団体戦！その空気感をクラス率先して作り上げ、自ら日々の学習に丁寧に取り組み、基礎の徹底と反復によって着実に力を伸ばしていく姿勢が印象的でした。計画を立て直しながら、一つずつ課題を乗り越える力は大きな武器です。立命館でもその粘り強さを大切に、さらなる成長を期待しています。合格おめでとう！



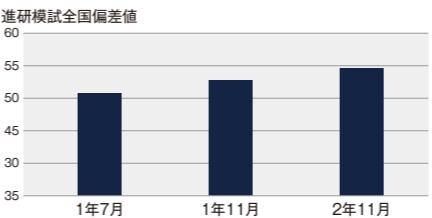
ダメ元で挑戦しよう

アスリートアドバンスコース(サッカー部) ○合格大学 **神戸大学(医学部検査技術科学専攻)**
同志社大学(生命医科学部医生命システム学科) 他
上地 希輝さん
 (大阪市立西淀中学校卒)

サッカー部に所属していた私は、10月から本腰を入れて受験勉強を始めました。最終的には、私は富山大学理学部に合格することができました。しかし、特色入試で不合格だった第一志望、京都大学へのこだわりを捨てきれず、もう一年挑戦するために浪人の道を選びました。私の二年間にわたる受験の経験が、何かの参考になればと思います。一年間の浪人生活。しかし、必死に勉強したにもかかわらず、共通テスト本番では再び目標点に届かず、京都大学への道は厳しいという現実に直面しました。正直、心が折れかけました。そこで私は、一度、勉強から完全に離れることにしました。数日間休んで頭を切り替え、自分の現状を整理し、今からできることは何かを必死で考えました。もともと医療系の検査技術系に進みたいという志望がありました。神戸大学でさえ共通テストの結果からは大きなビハインドがありましたが、「ダメ元で挑戦しよう」と、出願を決めたのです。

そこからは、やるべきことに無心で集中しました。予備校のテキストを信じ、数学は『Focus Gold』、化学は『重要問題集』なども使いながら、残された時間で全力を尽しました。合格を知った時は、信じられない気持ちでした。進学前は京都大学への心残りもありましたが、実際に大学に通い始めると、すぐに新しい友達もでき、想像していたよりもずっと楽しい毎日が待っていました。あの時、二度の挫折にも腐らず、気持ちを切り替えて最後までやり切って、本当に良かったと思います。

受験勉強は、心身ともにしんどくて大変なことだと思います。ですが、たとえ第一志望の道が閉ざされたとしても、諦めずに前を向けば、予想もしなかった素晴らしい道が拓けることもあります。どうか最後まで頑張ってください。



担任コメント

現役で富山大学に合格しながら、それを辞退して浪人の道を選ぶと聞いた時は、君の意志の強さに正直、驚かされました。この一年、君が苦しみながら机に向かっていた姿を見していました。特に共通テストの後は辛そうでしたが、そこから見せた最後の追い込みと、逆境での集中力は本当に見事でした。ダメ元でと言つて掴み取った合格は、君の強い心が引き寄せたものです。二年間、本当に頑張った。



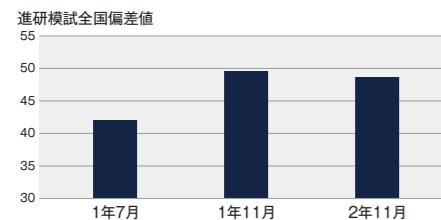
二足のわらじをはきこなす

アスリートアドバンスコース(硬式野球部)
○合格大学 **和歌山大学(経済学部)**
熊谷 直也さん
(堺市立鳳中学校卒)

○合格大学 **和歌山大学(経済学部)**
大阪工業大学(知的財産学部)

私は、硬式野球部での活動と学業という二足のわらじを履きこなし、和歌山大学経済学部への合格を勝ち取りました。私が和歌山大学を志望したのは、まず国立大学へ進学したいという強い希望があったからです。しかし、それ以上に私の心を捉えていたのは、和歌山大学硬式野球部への熱い想いでした。高校で全国を目指して練習に心血を注いでいた私は、和歌山大学硬式野球部が全国大会に出場していることを知り、ここぞが私の夢を叶える場所だと確信しました。私の合格は、学業と部活動、双方への情熱が実を結んだ、まさに奇跡の結果だと感じています。私の体格は決して大きい方ではありませんでしたが、その分、人一倍努力を重ねました。野球の練習で疲労困憊の日々の中、受験勉強においては寸暇を惜しんで頑張ったという経験が合格を引き寄せたと思います。移動中の電車の中、朝練前のわずかな時間、そして夜遅くまで練習した後の時間。あらゆる隙間時間を活用して勉強に打ち込みました。小論文は基礎的な書き方の本と過去問を徹底的に分析し、グループ討論では日経キーワードと朝日キーワードを読み込み、着実に実力をつけていきました。野球で培った集中力と粘り強さが、勉強にも活かされたと強く感じています。

受験勉強中に最も辛かったのは野球と勉強の両立の中で、ずっと勉強を続けて考えすぎるあまり、成長しているのか分からなくなったりました。肉体的にも精神的にも追い込まれ、心が折れそうになる瞬間もありました。しかし、私はその困難を乗り越えるために、合格して大学で野球を続け、充実した生活を送っている自分を想像し、モチベーションを維持しました。さらに、「もし不合格だったとしても、人生の中でこんなに本気で勉強したという経験は、今後のどこかで必ず活かされる」と信じることで、どんな辛い状況も乗り越えられたのです。この前向きな思考は、野球で培った私の精神的な強さそのものでした。私の努力をまわりの先生方も見抜いてくださっていました。監督の喜多先生をはじめ多くの先生方は、私の姿勢を理解し、親身になって寄り添い、必要なサポートを惜しみなく提供してくれました。放課後、私が野球の練習から戻ってきてからでも、快く質問に答えてくれたり、課題を見てくれたり、時には朝の7時から授業をしてくれました。このような先生方の温かい支えがあったからこそ、私は安心して野球にも勉強にも集中し、自身の可能性を最大限に引き出すことができました。本当にありがとうございます。



担任コメント

3年間、野球と勉強の両立は本当に大変だったと思うけれど、よく頑張り抜いた。特に、伝統ある硬式野球部のピッチャーとして戦った春の府大会準優勝も本当に見事だったし、朝早くから勉強に取り組んでいる姿は本当に格好良かった。その粘り強さが、今回の合格に繋がったと思う。大学でのさらなる活躍を心から期待しているよ!



野球を通じて培ってきた体力や精神力を社会のために

アスリートアドバンスコース(硬式野球部)
○就職先 **株式会社 きんでん**
松本 陸さん
(東大阪市立意岐部中学校卒)

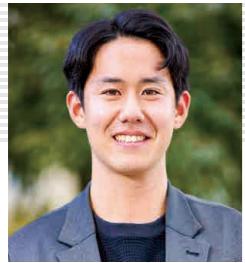
最後の夏まで白球を追いかけていた私にとって、引退後の進路選択は、野球とはまた違う、大きな決断の時でした。私が就職に対して本気で自分と向き合ったのは引退後の3年生の8月です。まず、自分一人で決めるのではなく、就職指導部の先生、担任の先生、そして両親に、何度も相談の時間を作っていただきました。多くの方々の意見に耳を傾ける中で、自分の将来像が少しづつ明確になっていきました。

最終的に株式会社きんでんを志望したのは、同じ硬式野球部の先輩が活躍されているということで、身近な目標を感じられたことが大きかったです。また、自分の能力を活用できるという点も重要でした。野球を通じて培ってきた体力や精神力、そして何よりチームで一つの目標に向かう姿勢は、社会に出てからも必ず活かせると考えました。

就職に向けた準備はその前、7月から始めました。就職指導部から配られた漢字ドリルなど、基本的な課題に毎日取り組みました。私にとって一番の挑戦は、この毎日継続することでした。特別なことではありませんが、日々の地道な努力を続けることの大切さは、野球の練習で身に染みていたので、最後までやり抜くことができました。今は、学生とは違う社会人としての自覚を持ち、身が引き締まる思いです。新しいスタートを前に、新鮮な気持ちと少しの不安がありますが、支えてくださった方々への感謝を忘れず、謙虚に、そして真摯に仕事に取り組んでいきたいと考えています。

担任コメント

最後の夏までグラウンドで全力を尽くした姿と、引退後すぐに自分の将来と真摯に向き合った姿勢は、本当に立派でした。周りの方々への相談を重ね、堅実に道を決めた君の姿を、とても頼もしく思います。野球で培った「継続する力」とチームを思う心は、社会に出てから大きな武器になるはずです。君のこれから活躍を、心から応援しています。



自分で決めたことだから、諦めなかった

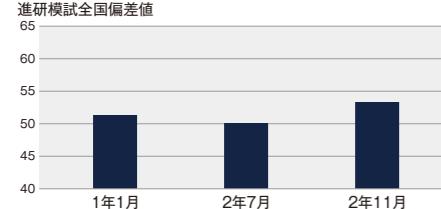
アスリートアドバンスコース(サッカー部)
○合格大学 **慶應義塾大学(文学部)**
尾形 祐輔さん
(堺市立五箇荘中学校卒)

「自分で決めたことだから、そこで折れたら自分に負ける」。サッカーと勉強の両立に苦しんだ日々、私は常にこの言葉を胸に刻んでいました。私が慶應義塾大学を志望したのは、3年生の6月です。勉強を疎かにせず、サッカーにも全力で取り組める環境を探した時、この大学こそが「文武両道の極地」だと感じ、ここで挑戦したいと強く思いました。

しかし、その道は想像以上に過酷でした。チームではスタートイングメンバーとして出場していたため、練習や試合で手を抜くことは絶対にできません。一方で、難関大学合格のためには、膨大な学習時間が必要です。肉体的にも精神的にも限界を感じる毎日でした。それでも、私が諦めなかったのは、これが「自分で決めたこと」だからです。ここで逃げたら、きっとこの先もあらゆることから逃げ続ける「逃げ癖」がついてしまう。それだけは、絶対に嫌でした。同じ大学を目指す仲間の存在も、大きな支えとなりました。互いに励まし合い、高め合う仲間がいたからこそ、苦しい時期を乗り越えることができたのです。

学習においては、限られた時間で結果を出すため、各教科で核となる戦略を立てました。英語は単語を完璧にしてから長文演習へ。現代文は新書を読んで背景知識を深め、読解力を鍛える。日本史は隙間時間で一問一答を繰り返し、時間が取れる時に教科書で流れを理解する。このサイクルを愚直に守り抜きました。その結果がどうかはわかりませんが、最終的に、先生が対策してくれていた小論文が当日の試験に出て、それを書き切ったときに合格を確認することができました。

辛かった日々を乗り越えたからこそ、今の自分があるのだと確信しています。そして、諦めずに頑張り続けてくれた、当時の自分に「ありがとうございます」と言いたいです。後輩の皆さんへ言いたいことは、自分で決めたことは、何があってもめげずに貫き通すことが大切です。その強い意志が、皆さんを合格へと導いてくれるはずです。



担任コメント

大学合格、本当におめでとう。そしてインターハイ出場、本当にお疲れ様でした。「慶應のユニフォームを着てサッカーがしたい」と、君が熱く語っていた姿を覚えています。サッカーと難関大学の受験勉強との両立は、想像を絶するほど大変だったことでしょう。それでも「自分で決めたことだから」と弱音一つ吐かず、最後まで自分と戦い続けた君の精神力に、心から敬意を表します。憧れの舞台でも、自分らしく輝いてください。



自分の興味を信じること

アカデミアコース(硬式野球部)
○合格大学 **大阪工業大学(知的財産学部)**
森知 佑太さん
(大阪市立東我孫子中学校卒)

私が大阪工業大学の知的財産学部を志望校に決めたのは、3年生の初め頃です。進路を調べていく中で、他では見かけないこの学部の存在を知り、純粋に面白そうだなと感じたのがきっかけでした。ここでなら、他ではできないような色々な経験ができるのではないか、この情報化社会の中で、弁理士といった今後活動のスケールが広がりそうな職業が魅力的なのではないか。それが私の志望の大きな理由になりました。また、興國高校が大阪工業大学と連携の授業を持っていたのも理由の一つです。

硬式野球部を引退し、本格的に勉強を始めたのは8月からです。スタートが遅かった分、限られた時間で集中することを意識しました。私の勉強法はとてもシンプルで、特別な参考書を使うというよりは、これまでの授業で使ってきたノートや教科書を、何度も繰り返し見返すというものです。もちろん、勉強を進める中で、なかなか理解できない部分にぶつかることもあります。それが一番辛かったことかもしれません。しかし、そんな時は焦らず、基本に立ち返って教科書や今まで授業で扱ってくださったプリントを読み直す、ステップ小論文などの教材をやり直す。その作業を粘り強く続けることで、少しづつ乗り越えてきました。

無事に第一志望の大学に合格できて、今は本当に気が楽になったというのが、一番正直な気持ちです。最後まで自分の興味を信じて、やり抜いて良かったと思っています。後輩の皆さんへ。私が言えることは多くありませんが、皆さんも自分の信じる道に向かって、どうか最後まで頑張ってください。

担任コメント

挨拶や提出物といった、当たり前のことを当たり前にできる、礼儀正しく真面目な生徒でした。その誠実さは勉強にも表れており、大阪工業大学という独自の目標に対し、基本を繰り返し大切にする君らしい努力が、この素晴らしい結果を呼び込んだのだと思います。これからの活躍も、心から期待しています。



今打ち込んでいる部活動などが将来の力になる

キャリアトライコース(陸上競技部)
池本 圭一郎さん
(寝屋川市立第五中学校卒)

○就職先 **警視庁**

小さい頃にテレビで見た、街の安全を守る警察官の姿が、ずっと僕の憧れでした。その夢を叶えるために陸上競技部を引退し、本格的に警察官になるための勉強を始めたのは、4月頃からです。勉強を始める前に、まず試験の過去問などを見て、自分の得意な科目と苦手な科目を確かめました。目標は大きいけれど、まずは自分の現在地を知ることが大切だと思ったからです。

学習を進める中で、模試の点数がなかなか安定しなかった時は、本当に焦りました。そこで、得意な科目で確実に点を取れるように勉強を固めて、苦手な科目は、全部を完璧にしようとせずに「この単元なら取れる」という部分を見つけて、そこに集中するようにしました。全部を頑張るのではなく、力を入れるところと、そうでないところをはっきりさせたのが良かったと思います。そして、陸上部で最後まで活動をやり遂げた経験が、本当に大きな精神的な支えになりました。苦しい時でも踏ん張れたのは、部活で培った力のおかげです。憧れだった仕事に就けることを、今、とても嬉しく思っています。

今、挑戦しようとしている皆さん、目標を立てる前に、まずは自分の得意なことや苦手なことをよく知ることから始めてみてください。そして、今皆さんが打ち込んでいる部活動などは、絶対に将来の力になります。最後までやり遂げることを、大切にしてほしいです。

担任コメント

池本君、警視庁合格、本当におめでとう。その地道な努力を続けられる力と、自己を冷静に分析する目は、必ずや警察官という仕事につながると確信しています。今の時代、君のように高い志を持って市民の安全を守ろうとする若者は、社会にとって本当に貴重な存在です。君の正義感が、未来を明るく照らしてくれることを期待しています。



合格への道は、決して一つだけではありません

ITビジネス科アドバンスコース
近藤 航さん
(大阪市立文の里中学校卒)

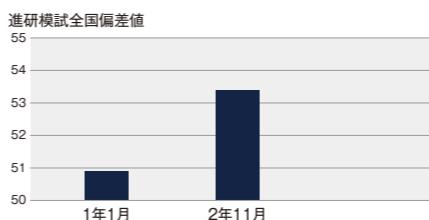
○合格大学 **立命館大学(経済学部)**
大阪経済大学(経営学部)

勉強が苦手だからと、憧れの大学を諦めていませんか?合格への道は、決して一つだけではありません。僕が実践した、夢を叶えるための方法についてお話しします。僕には、高校入学当初から公認会計士になるという明確な夢がありました。そして、その夢を叶えるために最適な場所はどこか、徹底的に調べました。その結果、公認会計士の輩出率が非常に高く、資格取得へのサポートも手厚い立命館大学こそが、自分の理想とする大学だと思いました。

しかし、問題はどうやって合格するかです。一般的な学力試験だけでなく、自分の夢への熱意や計画性を直接評価してもらえる方法はないかと考えました。そこで見つけたのが、会計プロフェッショナルを目指す学生のためのUNITE(ユナイト)プログラムとその特別選抜入試(UNITE入試)でした。これこそが、僕が進むべき道だと確信しました。

僕の1日2時間という勉強時間は、このUNITE入試に特化したものでした。高校3年生の夏休み頃から、小論文の対策や、面接で自分のビジョンをしっかりと語るために自己分析など、評価されるポイントに絞って準備を進めました。多くの科目を広く浅く勉強するのではなく、自分の強みが活かせるフィールドで戦う。それが僕の戦略でした。その結果、ずっと入りたいと強く願っていた大学に入学することができ、今は本当に感無量です。これから始まる大学生活を、思い切りエンジョイしていきたいと考えています!

僕が伝えたいのは、合格へのアプローチは多様だということです。今は本当に様々な受験方式があります。もし勉強が苦手だと感じていても、決して志望校を諦める必要はありません。自分の夢を叶えるために、どんなやり方があるのか、ぜひ広い視野で考え、自分だけの戦略を立ててみてください。



担任コメント

学園便りにも掲載される期待の星でしたね!入学後最初の懇談で立命館大学に行きたい!と教えてくれた時、「担任として貴方に何をしてあげられるか」思い巡らせたことを今でも昨日のことのように思い出します。あなたの素晴らしい所は、自分自身のことをよくわかっている所です。自分を追い詰めることなく、コツコツと目標に向かって真摯に取り組みました。そんな貴方だからこそ、たくさんの先生方が応援してくれたのだと思います。まだ夢を叶える途中です!あれほど焦がれた立命館大学でますます成長し、世の中の役にたつ大人になってほしいと心から願っています。



自らの計画性と先生方のご指導の両輪が合格に導いた

ITビジネス科アドバンスコース
末吉 亜斗夢さん
(堺市立南八下中学校卒)

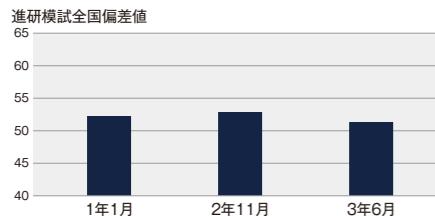
○合格大学 **大阪公立大学(商学部)**
明治大学(商学部)

私が志望校を大阪公立大学に定めたのは、高校1年生の時です。自宅から近く、高いレベルの教育が受けられること、そして商学部に推薦入試があったことが理由です。早い段階でゴールを明確に設定したこと、そこから逆算し、3年間を通じた長期的な学習計画を立てることができました。それは、後に達成した全商9冠とその他の共通テスト対策でした。

私の学習法は、インプットよりもアウトプットを重視するものでした。基本的に全教科で過去問を早い段階から解きはじめ、まずは自分の実力と、目標との距離を正確に測りました。その上で、共通テスト用の参考書などを使い、自分に足りない知識を取り扱いながら、効率的にインプットしていく。そしてまたアウトプットで確認する。このサイクルを繰り返すことで、分からぬ箇所を一つひとつ潰していました。

しかし、こうした自己の計画が実を結んだのは、先生方の手厚いご指導があったからです。担任の先生には、学習全体の進捗について親身に相談に乗っていただきました。また、推薦入試の鍵となった自己推薦書は、大前先生に何度も丁寧なご指導をいただき、自分の思ったことを論理的に組み立てる力を養うことができました。そして、多くの先輩方を合格に導いてくれたOBの宮脇先生の存在は、大きな安心感と精神的な支えとなりました。

もちろん、そんな私にも弱点がありました。それは、「朝起きること」と「家で集中すること」です。この弱点を自覚していたため、私は早々に家での勉強を諦め、毎日、必ず家の外で勉強するというルールを自分に課しました。学校の自習室や図書館など、集中できる環境に身を置くことで、自分の弱点を物理的に克服しました。自らの計画性と、先生方の的確なご指導。この両輪があったからこそ、第一志望に合格できたことを、大変嬉しく思っています。



担任コメント

明確な目標に向かい、努力を惜しまないあなたの姿は、クラスの良い手本でした。全商検定9冠を達成した時の、安堵と喜びに満ちた、普段は大人びていてなかなか見せない、年相応の柔らかい笑顔は今も忘れられません。周りが次々と合格を決める中での不安を乗り越え、合格発表の日に見せた輝くような笑顔は、私の誇りです。その力で、次のステージでも日本を引っ張るリーダーとなってくれることを期待しています。頑張れ!



過去問を初めて見た時は、あまりの難しさでショックを受けました

ITビジネス科ゲーム&デジタルワークスコース
中川 薫さん
(大阪市立花乃井中学校卒)

○合格大学 **関西外国語大学**
(外国語学部英語デジタルコミュニケーション学科) 他

初めて志望校の過去問を見た時は、正直、難しくてこれは歯が立たないかもしれないと思いました。でも、そこから自分なりに工夫を始めたことが、合格に繋がったんだと思います。私は昔から英語や語学が好きで、関西外国語大学に進学したいと考えていました。いざ受験勉強を始めて過去問を見てみると、その難しさに少し圧倒されてしまいました。ただやみくもに勉強するのではなく、まずは相手を知ろうと思い、どんな問題が出て、どんな力が必要なのかをじっくり研究しました。それが分かると、自然と「じゃあ、この勉強をしよう」と自分なりの計画が立てられました。

僕が特にやってみて良かったのは、単語帳を高速で何度も見返すことです。『システム英単語』などを使って、一回で覚えようとせず、とにかく回転率を上げる。これを通学中や寝る前に続けると、自然と語彙が増えていきました。また、YouTubeの「もりてつ基礎英文法講座」はとても分かりやすく、文法の基礎固めに役立ちました。英文を正確に読むための英文解釈の勉強も、長文が読めるようになる実感があり、効果的でした。

こうした工夫のおかげで、最初に感じた不安は、少しずつ自信に変わっていきました。結果、受験した6学部に全て合格しました。その中でも自身が高校生活で興味を持ったデジタル分野が将来重要なだろうと考え、英語デジタルコミュニケーション学科に進学を決めました。もちろん、疲れた時は無理せず、しっかり休むことも大切です。計画を立てて、自分に合ったやり方を見つけて、それを続けていくことで、合格の可能性はぐっと広がると思います。時には息抜きもしながら、頑張ってください。

担任コメント

中川君、合格おめでとう。君の持ち味である分析力と探究心が、見事に発揮された素晴らしい結果ですね。初めは別の大学を目指していましたが、私が小論文の指導をしたことを思い出します。あの時に鍛えた、物事を論理的に捉え、構成する力が、回り道に見えても、君の合格の礎になっていたなら、これほど嬉しいことはありません。大学でもその力を存分に発揮し、大きく成長してくれるることを期待しています。

編集後記

昨年度初めて刊行し、ご好評いただいた合格体験記は皆様のおかげで今年度も刊行することができました。二年目となる今年は、在校生にもより参考にしてもらえるよう、学習の内容に焦点を当てて執筆してもらいました。

編集を進める中で特に印象的だったのは、今年の合格者には幼い頃の夢を追いかけて大学合格までたどり着いた生徒が多かったことです。『名探偵コナン』の公安警察に所属する安室透に憧れて東京大学法学部を目指した生徒や、『ポケットモンスター』の制作に関わりたいという気持ちから京都大学情報学部への道を切り開いた生徒など、彼らの意志には幼い頃からの純粋な気持ちと強い探究心が息づいています。

毎年書かせていただきますが、興國高校は単に授業を提供するだけでなく、生徒一人ひとりに寄り添い、最適な進路を共に探す学校です。多様な入試形式に対応できるよう、総合型選抜や学校推薦型選抜など、担任が最後まで親身にサポートします。この思いは、特進のアドバンスコースだけでなく、全てのコースの教員たちが共有しています。本来なら、入学時の学力では大学に行くことすら難しい生徒を開花させる。その意味を知っている教員が担任をしています。

今回掲載したのは20名ですが、総勢160名もの生徒がこの企画に協力してくれました。末筆にはなりましたが、合格体験記の作成に力を貸してくれた生徒の皆さん、本当にありがとうございます。皆さんの努力と、夢を追いかける姿勢が、後輩たちの将来の成功へと繋がることを心から願っています。皆さんも幼い頃の志をこれからも忘れずに、大きく羽ばたいていってほしいと願っています。

興國高等学校 進学指導部より



2026年創立100周年を迎えます